

「道内空港の運営に関する検討会議」について

1 「道内空港の運営に関する検討会議」の設置

(1) 目的

道では、本年3月に取りまとめられた「空港運営に関する有識者懇談会報告書」の提言などを受け、今後道が道内空港の運営のあり方について検討を行っていく上で、地域の関係者と情報共有や意見交換を行うことが重要と考え、「道内空港の運営に関する検討会議」を設置することとしたもの。

(2) 検討会議の構成

道内13空港の関係自治体、空港ターミナルビル会社、駐車場事業者等

2 第1回検討会議の開催状況

(1) 日時 平成24年5月16日(水) 14:00~15:15

(2) 場所 北海道議会 第1委員会室

(3) 内容

- ・『「空港運営に関する有識者懇談会報告書」に係る論点整理』の説明(別紙参照)
- ・意見交換 等

(4) 主な発言等

- 夏頃に予定されている実行方針が出るのを待って道の方針や考え方をまとめていくのか。
- 運営の可能性を検討していく上で、国の情報が非常に重要になるため、早期に情報を入手してほしい。
- 道の有識者懇談会の報告書について、道としてどのように受け止めているのか。
- 有識者懇談会のヒアリングにおいて、関係自治体や空港ビル会社から出された意見については、道に対しても正式に意見を述べたものと理解してよいか。
- 除雪費の負担が相当大きく、民間の知恵を活用しても黒字化が困難な場合、最終的に国が責任を持って対応する必要がある。
- この検討会議の場などを通じて、国管理、道管理、市管理空港の関係者において共通認識に立ったものを国に出していくような形にしてほしい。

3 今後のスケジュール

国の動きを見ながら、第2回検討会議の開催時期・内容について検討する。

(参考)

本年夏頃：国による「空港経営改革の実行方針」(基本方針)の策定

秋頃：マーケット・サウンディングの実施

以上

「空港運営に関する有識者懇談会報告書」に係る論点整理
(「第1回 道内空港の運営に関する検討会議(平成24年5月16日開催)」資料から抜粋)

1 持続的な空港運営に向けた対応

効率化に向けた取組(情報開示等)について

(効率化一般)

- 空港運営の効率化に向けた取組を着実に進めることが必要。
- 効率化に向けた具体的な手法等については、地域の関係者からご意見をお聴きしながら検討。

(情報開示)

- 道管理空港について更なる情報の開示に努める。
- どのような情報の開示が必要かについて、地元の関係者と意見交換を行いながら整理。

2 国の空港経営改革に向けた対応

(1) 複数空港の一体運営(バンドリング)について

- バンドリングという手法の活用は重要。

(2) 空港整備について

- 空港整備における官民の役割分担について、国がその考え方を明確化していくことが重要。
- 道内の国管理空港について、今後も空港の公共性、公益性を確保し、持続的な空港運営を行っていくために必要な整備については、国の責任で行うことが必要。

(3) 新たな空港運営主体について

- 空港を運営していく上で地域の発展に貢献していく視点が重要。

(4) その他

- 道内空港により結ばれたネットワークを確保していくことが重要。
- 民間事業者による事業継続が困難になった場合、国が責任を持って国管理空港の維持運営を継続していくことが必要。
- 地方に新たな負担が求められることがないようにしっかりと対応。